様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：３２６１５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０５９８

研究課題名（和文）複数言語環境における子どもの言語習得支援ポータルサイトの開発と運用に関する研究

研究課題名（英文）Development and implementation of a portal site to support children's language acquisition in a multilingual and multicultural environment

研究代表者
鈴木　庸子（SUZUKI, Yoko）

国際基督教大学・教養学部・講師

研究者番号：００２１６４５９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：「文化的・言語的に多様な背景を持つ子ども（CLD児）」とその言語発達を支える周囲の大人を支援するためのポータルサイト「ハーモニカ」（役に立つウェブサイトを集めたリンク集）を開発した。リンク先として母語・日本語の学習教材、母語の重要性に関する啓蒙的な情報、国内外で活動する支援グループ・機関の情報、研究成果・実践の成果報告など約200項目を、「子ども・学生」「親」「研究者」「教師」「支援者」「ステークホルダー」の6カテゴリーに分類して掲載した（2016年5月時点）。①母語の重要性に関する啓蒙活動として成果をあげたかの検証と②収集したリンク情報を体系化することが今後の課題である。

研究成果の概要（英文）：A portal site “Harmonica”, which is a collection of useful websites links, is built to help persons supporting “Culturally and Linguistically Diverse (CLD) Children” and their language development. The site includes about 200 items as the linked pages such as learning materials for mother tongue and Japanese, thought-provoking information on importance of mother tongue, information on supporting groups and institutions operating at home and abroad, reports on study and practice results. These items are classified into six categories of “Kids and Students”, “Parents”, “Researchers”, “Teachers”, “Volunteers” and “Stakeholders” (as of May 2016). Issues to be solved in the future will be 1. Verification on results of awareness campaigns for importance of mother tongue and 2. Systematization of the collected link information.

研究分野：バイリンガル教育、母語・継承語教育

キーワード：ポータルサイト　CLD児　文化的言語的に多様な背景をもつ子ども　母語教育　継承語教育　バイリンガル教育　ノン・フォーマル教育　言語力育成

１．研究開始当初の背景

(1)「多言語対話型評価法」ワークショップ

筆者は、2009 年より研究協力者中島和子らを講師に「多言語対話型評価法」と呼ぶ子どもの会話力・読書力評価のワークショップを開催してきた。この評価法は複数言語環境で成長する子どもを対象に、家庭言語と日本語の両側面から子どもとの対話を通して会話力・読書力を測るものである。結果はその子どもの言語発達の指標とし、適切な指導方法を見出したり、教育的効果をねらったりする先駆的な評価方法である。日本および海外における年少者日本語教育の現場—小中学校の日本語指導教室やコミュニティのボランティア日本語教室、外国人学校、補習校等において、この評価法のニーズは高く、学校教員、日本語指導員、研究者、教育委員会関係者等、3 年間で受講生数は 200 名を超えた。

(2)ワークショップ後の情報更新と共有

3 日間のワークショップでは、評価法の知識と技術の習得をめざすと同時に国内外の関係者同士の情報交流が活発に行われた。しかし、ワークショップ終了後、さらに知識を更新し、技術を向上し、情報交流を継続することはむずかしい。修了生から「交流を続けたい」という意見が寄せられるが、要望に応えてメーリングリストや SNS を利用したディスカッションの場を工夫しても、活発な情報交換に結びつかず、近隣市間でも情報が共有されていなかった。

(3)解決策としてのポータルサイト

このような状況の解決には、第一に網羅的でかつ的確に分類整理された情報源としてポータルサイトの存在は有用である。第二に、知識の更新とネットワークの継続を「生涯学習」機会ととらえ、その学習が生起する条件整備をすることが不可欠である。そこで本研究の当初の課題は①ポータルサイトを開発し、②その効果的な運用の条件を明らかにすることと設定した。

(4)ポータルサイトに掲載する情報源

本研究で述べるポータルサイトとは、複数言語環境の子どもにかかわる情報、すなわち「年少者日本語教育」および「母語育成支援」を核に、関連する種々の情報を提供するリンク集を指す。当初はウェブサイト内にコンテンツを構築することは志向していなかった。

ポータルサイトの開発にあたっては、数ある情報のうち、信頼性のおける、必要な情報が選択されていること、それが適切に分類され、使いやすく構成されていることが重要である。そのため、実用的な情報と啓蒙的な情報のそれぞれについて、開発当初は情報源を次に求めた。

①実用的な情報：年少者日本語教育を支える日本各地の NPO/NGO のウェブサイト、文部科学省、総務省、地方自治体の外国人支援を目的としたウェブサイト、大学や研究センターの発信する教材や教授法に関するウェブサイトおよび講習会、講演会などのイベント情報

②啓蒙的な情報：

ａ．複数言語環境における子どもの言語習得について北米・欧州を中心に過去の研究成果の蓄積がある。行政が母語保持の重要性を啓蒙するために、オンライン上で研究成果を提供するケースもある。以下の例がある。

・“Heritage Languages: The Development and Denial of Canada’s Linguistic Resources”, Jim Cummins and Marcel Danesi, 1990 (邦訳『カナダの継承語教育：多文化・多言語主義をめざして』中島和子・高垣俊之訳 2005)

・国際研究集会「年少者への言語教育の可能性と展望：バイリンガリズムか、複言語主義か」（2012 年 9 月 9 日　京都大学 http://www.education-langue.com/colloque201209）

・“Why language matters for the Millennium

Development Goals" UNESCO office Bangkok, 2012

・「日本言語学会危機言語のページ」 http://elpr.bun.kyoto-u.ac.jp

b. 海外子女教育の教育に関する研究や、国内の国際家庭子女の母語と日本語の発達に関する研究、日本手話と音声言語としての日本語習得の関係に関する研究などで研究が進んでいた。とくに先端的な研究分野の成果がオンライン上でも公開されつつあった。

『アメリカで育つ日本の子どもたち』佐藤郡衛・片岡裕子　明石書店 2008

『平成 21-23 年度科学研究費補助金基盤研究 C 日本語母語児童への国語教育と非母語児童への日本語教育を言語環境から構築する試み』（研究代表者真嶋潤子、課題番号 21610010）

『平成 23 年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）継承日本語教育に関する文献のデータベース化と専門家養成」（研究代表者中島和子、課題番号 21320096）

２．研究の目的

本研究の当初の目的は「ポータルサイトの開発」とその「有効な運用条件の検証」であった。「開発」では、利用者の属性・ニーズを調査しつつ、よいポータルサイトの「情報源」「情報の分類とサイトの構成」を明らかにすることと設定し、そのうえで「有効な運用条件を検証しようとした。

試作版の公開や、想定される利用者グループへの情報提供・モニター依頼の機会を通して、「開発」にあたっての下位の目的を次のように設定した。

・ポータルサイト開発の背景にある母語育成の重要性について啓蒙すること。

・情報を分類し、体系化すること。

３．研究の方法

ポータルサイトは次の手順で開発した。まず、専門家の意見を参考にしつつ、よいポータルサイトの評価として重要な点を次のように策定した。

①レイアウトのわかりやすさ、②カテゴリーの妥当性、③リンク先の分類と整理の妥当性、④リンク先の重要性と情報の精度⑤情報の更新。これらを達成するためページのレイアウトを決めるウェブサイトデザインと基本仕様は業者委託とした。カテゴリーの基本構造は複数の教育関係のウェブサイトを比べてオンタリオ州教育省およびトロント教育委員会のウェブサイトをモデルとした。リンク先の分類と整理の妥当性およびリンク先の重要性と情報の正確さは、情報の収集とリンク作業を重ねる中で試行錯誤しつつ確認した。

試用版の完成後、情報の追加および更新は研究者が自由に行える仕様にした。さらに試用版の段階で、数次にわたり専門家からの意見を集め、修正したり機能を追加したりした。利用者と想定されるグループへのニーズ調査のほかに、ポータルサイトの理念である「母語育成」をテーマにした勉強会や講演会を開催し、この機会を通して情報提供依頼、ポータルサイトの理解を広めた。中心のテーマである「母語育成」の啓蒙に関する記事は、同様に専門家に校閲を依頼した。

４．研究成果

(1)ポータルサイト「ハーモニカ」構築

トップページは日英ポルトガル語の 3 言語、リンク先 200 項目以上、「ハーモニカ」自身のコンテンツとして都道府県別の団体情報や、論文資料を加え、大きな枠組みは完成した。トップ画面のイメージ（英語版）を図１に示す。カテゴリーは、「子どもと学生」など 6 種のユーザーをメインカテゴリーとして構成している。ほかに「行政によるデータ」「関連学会」というタイプの異なるカテゴリーを設けた。特に強い関連をもつウェブサイトとして関西母語支援研究会による「多文化な子ども」（久保田他 2014）、文部科学省によ

る「CLARINET」と「かすたねっと」、文化庁による日本語教育のための情報サイト「NEWS」、海外の関連サイトとして「ユネスコ」「MyLanguage.ca」を右サイドのメニューに掲載した。

図１ハーモニカトップページ画面

メインカテゴリーの概要は以下のとおりである。

①子どもと学生：幼児期の子どものための電子絵本や歌のサイト、小学生、中学生の日本語及び母語学習の教材群。

②保護者：母語の大切さ、母語以外の言語に周りを囲まれている場合に、どのように母語を保持することができるかなどの知識、母語教育関係の情報、日本の学校教育制度についての情報。

③先生（日本の学校制度の中で日本語指導の必要な児童生徒を担当する場合を想定）：学習指導上有益な教材・カリキュラムなどの情報、外国の学校制度や文化の情報、CLD 児の保護者に伝えることがら。

④ボランティア（日本国内の学校制度枠外において就学前および小中学校の日本語指導の必要な児童生徒に母語・日本語・学習指導を行っている状況を想定）：学習指導に有用な教材やカリキュラムなどの情報や支援団体の情報。

⑤研究者（大学院生含む）：研究資料の情報や学会・研究会の情報。

⑥ステークホルダー（CLD 児の教育にかかわる分野）：国際的な動向と情報や全国地方自治体の活動の情報集約など。

(2)ポータルサイト「ハーモニカ」の効果とインパクト

「母語育成の重要性」への気づきは、本研究を構想した時点に比較して大きく進展した。それは、「ハーモニカ」の開発によるものではなく、関連する多種学会でこの問題がとりあげられたり研究成果が積み上げられたり、社会問題化した事例をマスコミに取り上げられたりした状況から判断できる。ポータルサイトによる啓蒙の側面は、「重要であることを知る」という観点から、「どのように育成するのがよいか」という具体的な方法の知識に移り、それに伴って新たなリンク先の追加が必要となっている。「ハーモニカ」による「母語育成の重要性」啓蒙の効果に関しては、リンク先の内容を発展させた上で効果の検証を計画することが必要である。

「ハーモニカ」のインパクトは、利用者からの個人的な反応を通して知ることができたほか、関西母語支援研究会のウェブサイトに対して、「ハーモニカ」から研究会のウェブサイトを開くケースが多いことが確認されている。

(3)今後の課題

今後の課題は次のとおりである。

・「ハーモニカ」が目指す啓蒙の側面について効果とインパクトを検証すること。特に、複数言語環境の子どもについて焦点をあててこなかった母子保健分野、保育分野、学校教育方法分野にも広報の幅を広げたうえで、その効果の検証が必要である。広報の幅を広げることにより、国内外の支援関係者の質を向上させ、複数言語環境の子どもの健全な成

長を促す可能性が高いため、啓蒙の効果とインパクトが大きいと考えられる。

・ウェブサイトの利用を生涯学習として位置づけ、生涯学習としての学習効果とその要因の関係を検証すること。具体的にはウェブサイトの効果的な周知、利用者の属性やニーズ、ページ構成および情報分類、利用者のネットワークやウェブサイト管理者との関係の面が重要だと考えられる。

・　本研究で整理できた直接のリンク先の件数は 200 件あまりに上るが、筆者自身によるコンテンツの中に、間接的に 100 件以上のリンク先を持っている。そのためひとつのカテゴリーの中に 20 件から 60 件以上のリンク先が含まれ、その数は今後も増加することが確実である。そこでサブカテゴリーの追加や、場合によってはさらに下位の分類をもうけて、リンク先情報のわかりやすい体系化が必須である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計　２　件）

① 鈴木庸子「CLD 児の言語育成支援ポータルサイト「ハーモニカ」の開発」日本語教育方法研究会　2015.3.28 於学習院大学（東京都豊島区）

② グレゴリ・デュメン（ｱﾘｱﾝｽ・ﾌﾗﾝｾｰｽﾞ仙台）、鈴木庸子（国際基督教大学）「フランスにおける CLD 児のための教育—CASNAV について—」MHB 研究大会 2014.8.7 於国際基督教大学（東京都三鷹市）

〔図書〕（計　１　件）

① 中山実、鈴木克明編、鈴木庸子（分担執筆）「職業人教育と教育工学」（7 章 3-3 国内の外国人生徒への支援者への情報提供と共有—ポータルサイト「ハーモニカ」の開発）、pp.260（pp.148-151）、ミネルヴァ書房、2016 刊行予定

〔その他〕

ポータルサイト「ハーモニカ」URL
http://harmonica-cld.com/

６．研究組織

(1)研究代表者

鈴木庸子（SUZUKI Yoko）
国際基督教大学・教養学部・講師
研究者番号：00216459